

今月紹介する本は、被爆二世である著者の描いた8月6日です。

『八月の光』

朽木 祥／作 偕成社 2012年 1050円

<お勧め年齢>

幼稚園☆☆☆ 小低学年☆☆☆ 小中学年☆☆☆ 小高学年★☆☆ 中学生★★★  
高校★★☆ 一般★★☆

(★が多い年齢の子どもにお勧めです。)

<本の紹介>

母は銀行の前で黒い影となって残っていた。父が活着ていることを信じて待っていた母は、明日疎開するためにお金を下ろしに行ったのだった。

「石の記憶」ほか8月6日の3つの物語。

なぜ私ではなかったのか？ なぜ私は生かされたのか？

8月6日に広島を焼いたその光は、一瞬にして7万人の命を奪っただけでなく、残された人々の体や心にも長い傷跡を残した。

<子どもに手渡すときのポイント>

静かだけれども心の奥まで響く3つの物語です。

「なぜ私ではなかったのか？」「なぜ私は生かされたのか？」という問いは広島だけでなく、アウシュビッツ、さらには震災や津波の生存者たちにも重なる問いであると著者はあとがきに書いています。ヤングアダルト(※1)世代に読んでほしい1冊です。



(※1) ヤングアダルト：10代の若者・中高生

このコーナーで紹介した本はお近くの図書館や書店にあります。ぜひ手に取ってみてください。

総合図書館 重村 さやか